

# 運転支援プログラムを用いて超高齢者の 自己フィードバックを試みた一症例

---

桔梗ヶ原病院 リハビリテーション部 橋爪優香

# はじめに

---

今回、運転の再開を希望する超高齢者に対し当院の運転支援プログラムを用いた運転評価を実施した。

超高齢者であることに加え、脳梗塞後遺症（左片麻痺、高次脳機能障害）が残存していることから、事前に問題点を予測し、対象者と共有した中で運転評価を行い、自主返納に至った症例を報告する。

# 症例紹介

---

80代 男性

疾患名: 右脳梗塞

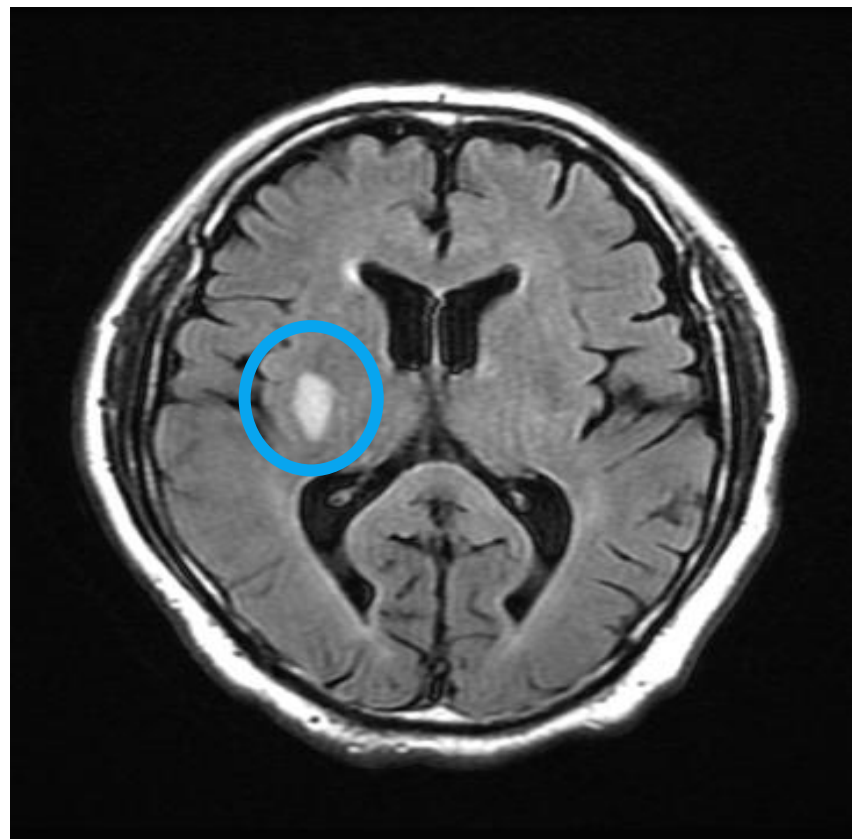
左側上肢重度 下肢中等度

現病歴: X-2年3月右脳梗塞を発症。

同年9月まで当院回復期病棟へ入棟し身体機能中心にリハビリテーションを行い歩行・生活動作自立となり自宅退院。

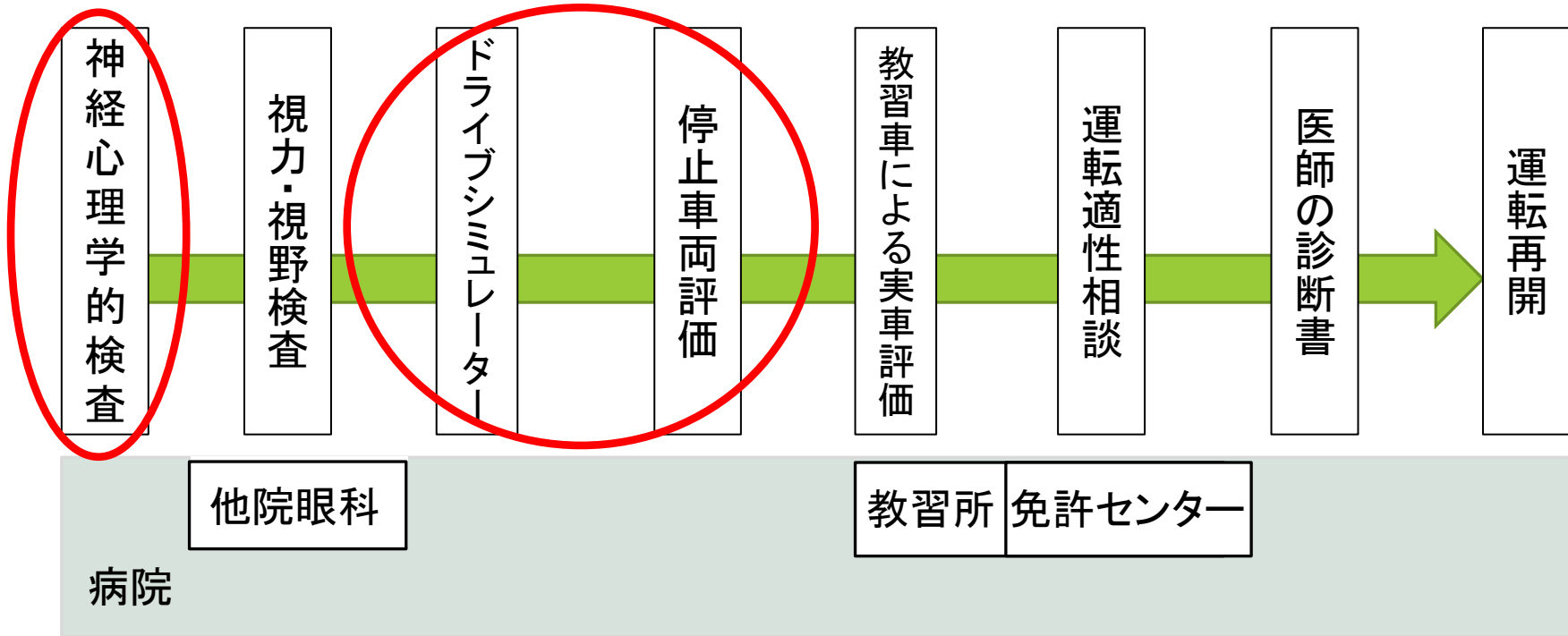
X年7月運転再開の可否判断を目的に入院。

主訴: 「妻のためにもやれるとこまでやってみたい」「やればできる」といった楽観的な発言も頻回。



# 当院における運転支援プログラム

## 運転支援リハビリテーション



# 問題点の予測と結果

---

**ドライブシミュレータ(以下、DS)評価:**

- ・旋回ハンドルの使用(右上肢による操作)
- ・高次脳機能障害の影響から複数の刺激に対して処理・判断が遅くなってしまう。

**停止車両評価:**

- ・身体機能障害の影響から目視による後方確認ができない

# まとめ

---

医療機関が**事前に**患者像を把握



対象者と予測される**問題点の抽出と共有**



運転評価（神経心理学的検査・DS・停止車両評価）



医療機関側の予測と運転評価の結果が一致



自身の運転能力やリスク面に気づくことが出来た

# 結語

---

今回、超高齢者に対し、医療機関側が事前に患者像を把握した中で運転評価を実施した。当院の運転支援プログラムを用いて各過程における身体・高次脳機能面の問題点や患者特性を抽出し、対象者と共有した中で実施したことが自己フィードバックにつながり自主返納に至った。